

佐賀市子どもの居場所づくりハンドブック

令和2年7月

●このハンドブックについて

このハンドブックは、子どもの居場所づくりについて関心や悩みをお持ちの方々に、設立や運営の参考としていただけるよう、作成したものです。

このハンドブックは、子どもの居場所づくりにおける『設立→企画→準備→活動→振り返り』という5つの検討すべき項目を順番に記載しています。

1 設立

① なぜ始めるのかを考えよう



何のために居場所づくりを行うのか、目的を明確にすることが重要です。

ここで考えたことは、活動をしていく上での軸となります。どんな企画をしたらよいか悩んだ時などは、この軸に立ち返って考えてみると良いでしょう。

考えられる事柄

目的を
明確にする

何のためにするのか、何をしたいのかから始めましょう。そして、活動を行うことで、どんな変化を起こしたいのか、どんな未来を描きたいのか、自分なりの将来像を持ちましょう。

様々な視点
から考える

○子どもの視点（居場所に求めること）

たくさん遊ぶ体験ができる場所、みんなとご飯を食べることができる場所、多様な学びができる場所、色々な相談ができる場所 など

○保護者の視点（居場所に求めること）

食事支援や食育などの場所、子どもに多様な学びを提供する場所、保護者に休息を与えてくれる場所、交流ができる場所、情報収集の場所 など

○地域の視点（居場所に求めること）

地域の見守りや支え合いができる場所、多世代間での交流ができる場所、社会参加、地域活動の活性化に繋がる場所 など

2 企画

①計画を立てよう



・どのような活動を実施するか

内容の決定には、1-①なぜ始めるか考えよう（1ページ）で考えた目的を考慮し、活動内容を決めましょう。

考えられる事柄

活動内容の 決め方

- ・目的に合わせて活動を決める。
- ・地域や子どもたちの実情を考慮して決める。
- ・子どもたちのリクエストで決める。
- ・地域の方々の得意分野（読み聞かせ、昔遊び、手品、工作、手芸、演奏など）を元に決める。

活動内容の例

- ・**食事の提供**
準備や後片付けの手間、衛生管理といった難しい面もありますが、みんなで食べる楽しさを経験し、関係性を深める孤食対策や季節柄の食事を食べて知るなど食育の一環にもなります。
- ・**学習支援**
宿題を見てあげることで家庭学習の習慣付けを図るものや、より専門的に学力向上を目指すものなどがあります。
- ・**遊びの提供**
子ども同士や大人（スタッフ・ボランティア）と自由に遊べる場を提供します。

・対象者の範囲をどうするか



誰でも参加できるようにするのか、それとも対象世帯を限定するのか、受け入れる地域を限定するのかなど、居場所の対象者の範囲を決めましょう。

考えられる事柄

どんな人 来てほしい か？

- ⇒ どんな人に来てほしいかを想像しましょう。
- ・ 地域の子ども ・ 保護者 ・ 地域の人 など
- ⇒ 活動内容や受け入れ体制などを考慮して、参加要件や受け入れ人数を考えましょう。
- ・ 年齢層 ・ 学校校区
 - ・ 支援を行いたい子どもに限定 など



・いつ活動を実施するか

平日の放課後や休日の昼間が考えられますが、夜間まで実施する場合は、参加できるスタッフ数や、参加する子どもの安全性などを考慮する必要があります。

考えられる事柄

活動を行う
時期

- ・ 実現可能な時期・時間か？
- ・ 対象者や人員が参加しやすい時期・時間か？
- ・ 安全な時期・時間か？
- ・ 地域のイベントなどと重複していないか？



・どこで居場所を実施するか

広さや設備、学校からの距離、地域の理解や協力、安全面、実施する活動内容など複数の要素を確認して活動場所を決めましょう。

考えられる事柄

適当な開催場
所はあるか

企画内容に
あった設備
があるか

周辺への配
慮や安全確認

○実施場所の選定の際に勘案すべきこと。

活動内容などを考慮し、適切な実施場所を確保しましょう。

【例】食事提供の場合

- ・ 調理に必要な設備などが整っているか？
- ・ 衛生状態が維持されているか？
- ・ みんなで食べるスペースがあるか？ など

○実施場所の候補となる施設

- ・ 地域の公的施設や公民館
- ・ 家屋や事務所などの借り上げ

○近隣への配慮

居場所を実施するに当たり、近所への事前説明を行いましょう。また、子どもたちが大きな声や音を出して騒いだり、近所の家に入り込んだりしないようにするなどの配慮が必要です。

○周辺の安全確認

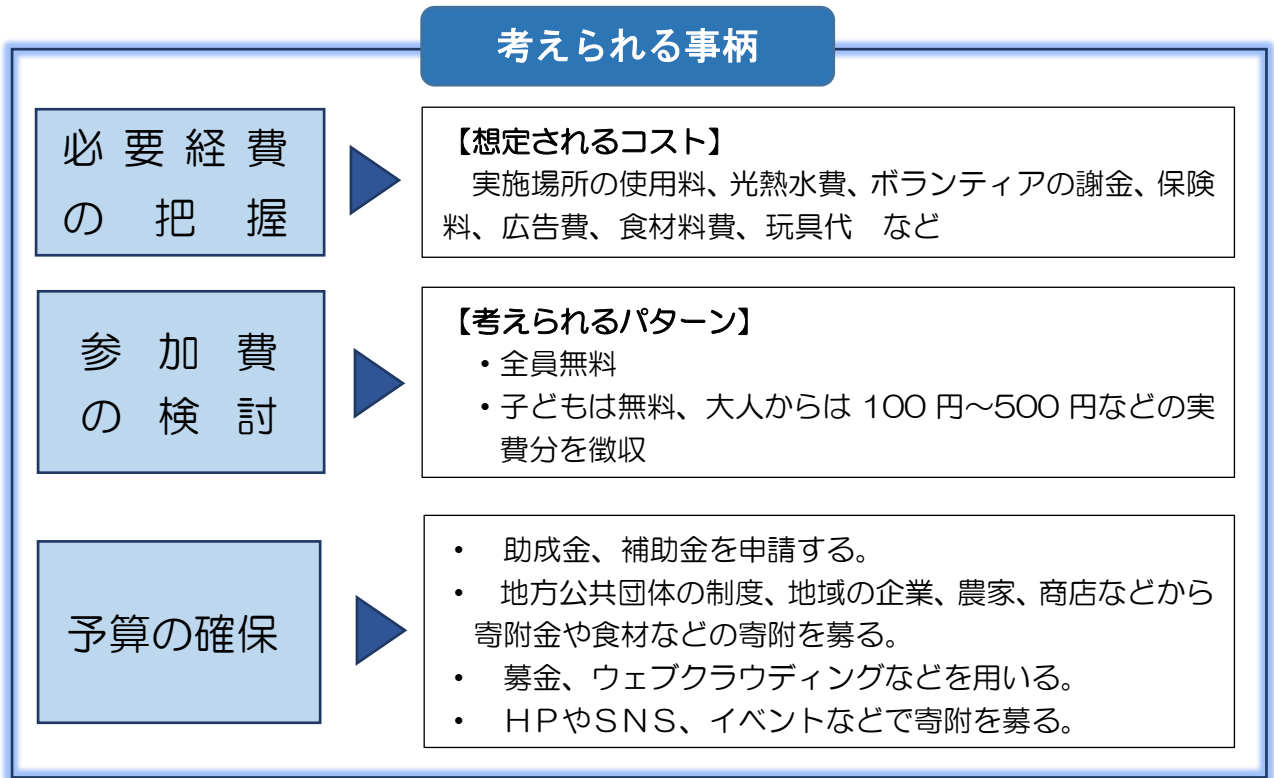
周辺の状況を確認し、危険な箇所を把握しましょう。例えば、交通量が多い場合は、立て看板の設置や見守り要員を配置するなど安全に努めましょう。



・どのように実施するか

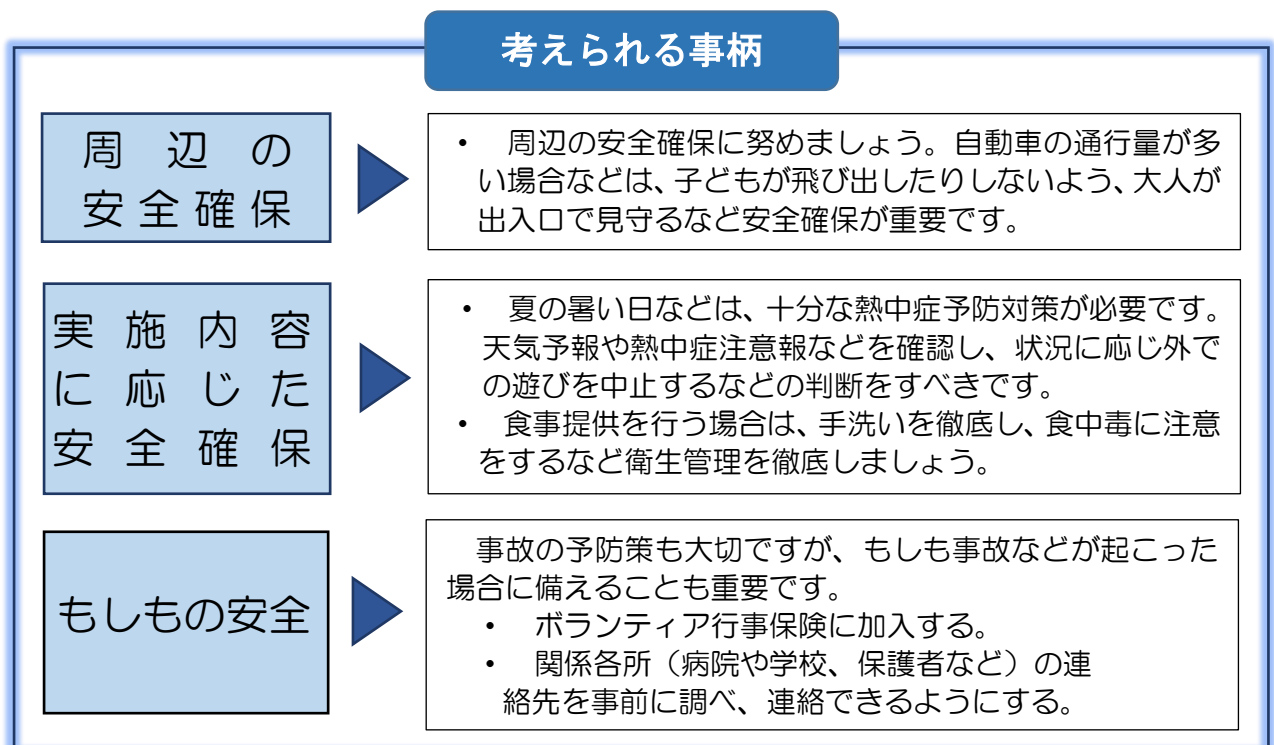
「計画」を実現するために必要なものは数多くあります。

企画する活動内容に合わせて必要な物品を書き出し、予算がどの程度必要か見積もりましょう。場合によっては、参加料を徴収し、必要経費の一部に充てることも考えられます。



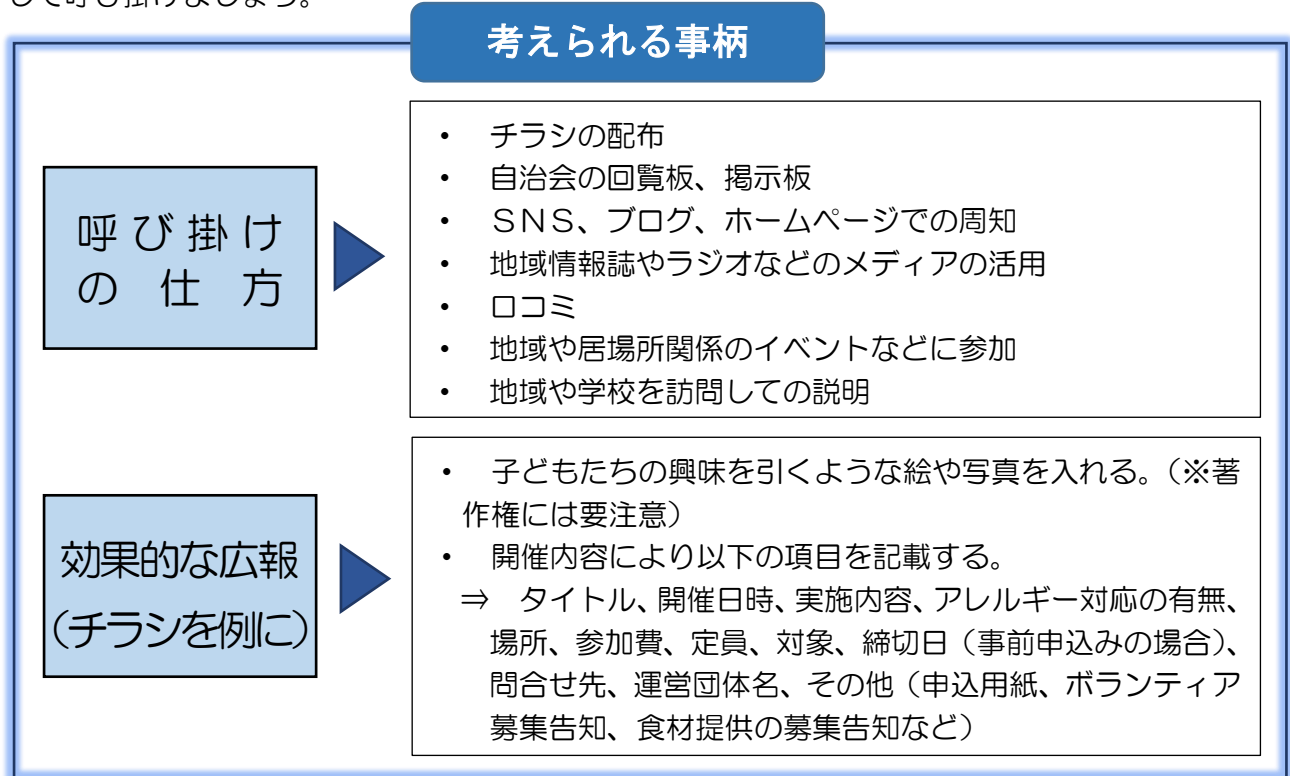
②危険を予測しよう

実施する場所の安全確保に努め、実施の内容を吟味し、危険を予測しましょう。



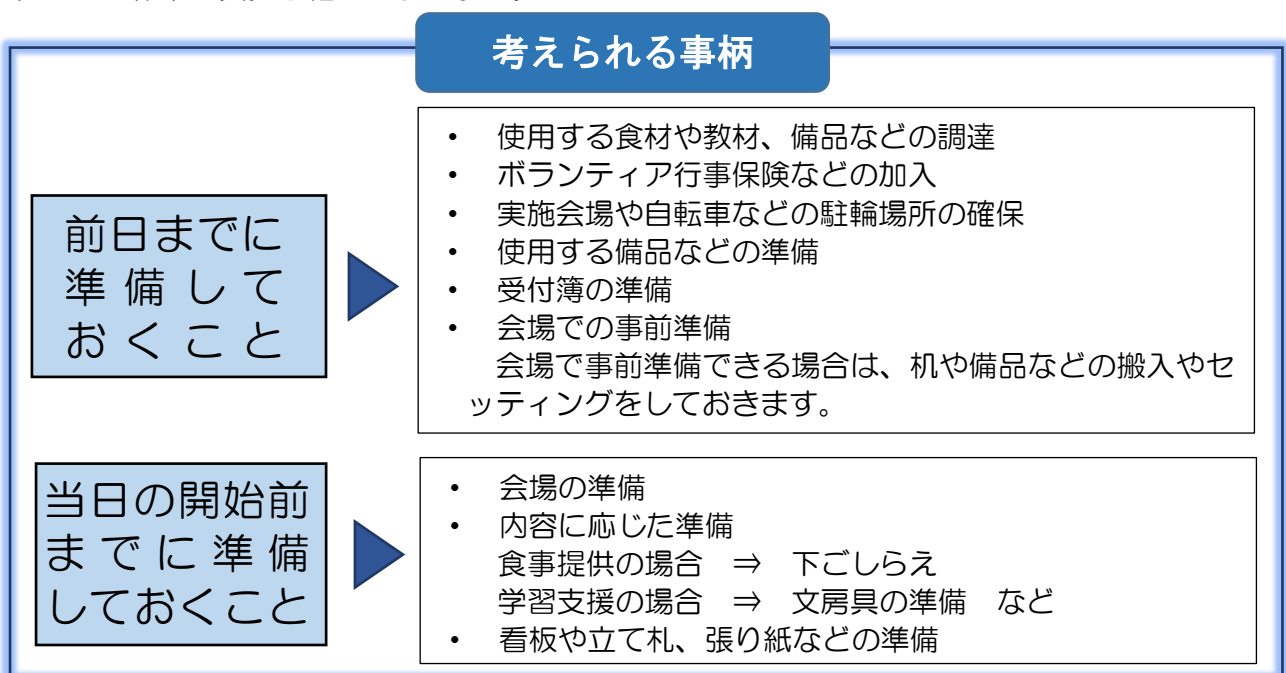
③呼び掛けをしよう

子どもの居場所を必要とする子どもたちに一人でも多く参加してもらうため、様々な手段を活用して呼び掛けましょう。



3 準備

『企画』を立て終わったら、次は『準備』です。できるだけ実施前日までに準備を済ませておくなどして、当日の作業の負担を軽くしましょう。



4 実施

それでは、実際に活動を『実施』しましょう。

それぞれの居場所で大きく内容が異なる場合がありますが、一例として、モデル事業として実施した“遊び場ゆうゆう”での平均的な実施内容と流れを例示したいと思います。

平均的な“遊び場ゆうゆう”の実施内容

XX:XX	料理担当のスタッフやボランティアが来所し、料理の準備を始める。	12時頃に食事を提供する場合、その内容によりますが早ければ9時頃には準備を始める必要があります。
10:50	開始時間を待ちきれない子どもたちが来所	
11:30	スタッフやボランティアが集まり始める。	調理スタッフだけでは子どもの相手をする余裕がないため、子どもの相手をするスタッフも早めに来る必要があります。 ※ 土曜授業の日に実施する場合は、子どもたちは授業終了後（12時過ぎ）にしか来ないため、時間的余裕があります。
12:00	“ゆうゆう” 開始 多くの子どもたちが来所（13時半頃までが一番来所する子どもたちが多し。） 料理を提供し始める。（この日の料理は、カレーライス、サラダ、漬物）	
13:00	食べ終わった子どもから屋内遊びや近くの神社の境内で外遊びを実施。入退は、自由にしており、飽きた子は帰っても良い。 ・ 屋内遊び：ボードゲーム、読書、お絵かきなど ・ 屋外遊び：コマ、縄跳び、ドッチボールなど	
15:45	子どもたちに帰るように声をかけ始める。	子どもたちから会場外の場所で遊ぼうと誘われても、会場内でしか相手できないと明確に断る必要があります。（会場外での遊びは自己責任）
16:00	“ゆうゆう” 終了 後片付け	後片付け終了後に簡単な振り返りを行うと情報共有ができ、今後の居場所に生かすことができます。
16:30	スタッフで本日の振り返りを行い、解散	



5 振り返り

子どもの居場所は、実施をして終わりではありません。次回の活動をよりよいものにするために、今回の活動を記録し、『振り返り』を行いましょ。

考えられる事柄

記録をしよう



○ 記録する事項の例

- 参加人数
- 実施中の様子
- 良かった点
- 気になった点
- 課題点 など

振り返りを
しよう



- 活動の記録後に、必ずスタッフ間で振り返りを行いましょ。振り返りは、情報を共有し、活動への理解を深めることに役立ちます。
- 集合してのミーティング、メールでのやり取りなど、様々な形態での振り返りが考えられます。

佐賀市子どもの居場所づくりハンドブック

編集・発行 佐賀市 子育て支援部 子育て総務課
〒840-8501 佐賀県佐賀市栄町1番1号
TEL 0952-40-7293
FAX 0952-40-7395
E-mail kosodate@city.saga.lg.jp
URL <https://www.city.saga.lg.jp/>

イラスト提供：WANPUG